



なぜなぜ分析が「形だけ」で終わっていませんか ——うまくいかない理由と“型”の整え方

現場改善やトラブル対応の場面で、「なぜなぜ分析」を実施されている企業は多いかと思います。一方で、こんなお悩みを伺うことも少なくありません。

「なぜなぜ分析をやっているが、再発防止につな
がっていない」
「結局、最後は“注意不足”で終わってしまう」
「分析はしているが、形だけになっている」

もしこうした感覚が少しでもあるとすれば、それは「やり方」ではなく“考え方”や“型”に原因がある
かもしれません。

本日は、「なぜなぜ分析がうまくいかない理由と
“型”」というテーマで、
・なぜなぜ分析とは何か
・取り組むことで得られる価値
・正しい進め方（ステップ）
・同じ失敗を繰り返さないための活用のポイント
を現場で使える視点で整理してお伝えいたしま
す。

日々の改善活動を一段深めるヒントとして、お役
立っていただければ幸いです。

■なぜなぜ分析とは何か

なぜなぜ分析とは、発生した問題に対して「な
ぜ」を繰り返し問いかけることで、
表面的な原因ではなく、“真の原因（真因）”にた
どり着くための手法です。

たとえば、不良が発生したときに、

「作業ミスがあった」
→なぜミスが起きたのか
→なぜその状態になっていたのか
→なぜその仕組みだったのか

といった具合に、原因を一段ずつ掘り下げていき
ます。

ここで重要なのは、現象ではなく“構造”に目を向
けることです。

単に「ミスが起きた」で終わるのではなく、「な
ぜそのミスが起きざるを得なかったのか」を考え
る。

この視点が、なぜなぜ分析の本質です。

■なぜなぜ分析に取り組むメリット

なぜなぜ分析を適切に行うことで、組織にはいく
つかの重要な変化が生まれます。

1. 再発防止の精度が高まる
表面的な対策（注意喚起、教育強化など）で
はなく、構造的な原因に対して対策を打てる
ようになります。
2. 問題解決の思考力が身につく
感覚や経験に頼るのではなく、論理的に原因
を整理する力が育ちます。
3. 組織内の共通言語ができる
「なぜを掘り下げる」というプロセスが共有
されることで、議論の質が安定し、属人的な
判断が減っていきます。
4. 改善活動が“積み上がる”
一度解決した問題が再発しにくくなるため、
改善の成果が持続し、組織としての力が底上
げされます。

■なぜなぜ分析がうまくいかない理由

一方で、なぜなぜ分析が機能しないケースには、
いくつか共通点があります。
最も多いのは、個人要因で止まってしまうこと
です。

「注意不足だった」
「確認が甘かった」
「経験が足りなかった」

これらは一見原因のように見えますが、実は“原
因のように見える結果”にすぎません。
ここで思考が止まると、対策も「注意する」「教
育する」に留まり、同じ問題が繰り返されます。

また、次のようなケースもよく見られます。

- ・最初の現象の定義が曖昧
- ・事実ではなく推測で進めている
- ・結論ありきで分析している
- ・なぜを無理に5回繰り返している

なぜなぜ分析はシンプルな手法ですが、だからこ
そ“型”が崩れると、簡単に形骸化してしまいま
す。

■なぜなぜ分析の基本ステップ（“型”）

では、どのように進めればよいのでしょうか。
ここでは、実務で有効な基本の“型”をご紹介します。

ステップ1：事実を正確に捉える

まず、「何が起きたのか」を具体的に定義します。

時間、場所、数量、状況などを明確にし、曖昧さを排除します。

ステップ2：現象を分解する

問題を一つの塊として捉えるのではなく、複数の要素に分けて整理します。

ステップ3：「なぜ」を一つずつ掘り下げる

各要素に対して、「なぜ」を繰り返し、原因を段階的に深掘りしていきます。

このとき重要なのは、

- ・事実ベースで考えること
- ・飛躍しないこと
- ・一問一答でつなぐこと

です。

ステップ4：真因を特定する

最終的に、「この要因を取り除けば再発しない」と言えるレベルまで掘り下げます。

多くの場合、真因は“仕組み”や“管理の不備”に行き着きます。

ステップ5：対策を仕組みに落とし込む

対策は、「実行される仕組み」になって初めて意味を持ちます。

人の注意に依存しない形で設計することが重要です。

■同じ失敗を繰り返さないための活用ポイント

なぜなぜ分析を「一度きりの活動」で終わらせず、再発防止につなげるためには、いくつかの視点が重要です。

1. 個人ではなく“構造”に焦点を当てる
人を変えるのではなく、仕組みを変える。
この原則を徹底することが出発点です。
2. データと組み合わせる
近年では、データサイエンスの活用により、原因の裏付けを客観的に取ることが可能になっています。
たとえば、
 - ・発生頻度の傾向分析
 - ・条件ごとのばらつき比較
 - ・異常の発生タイミングの可視化などを組み合わせることで、なぜなぜ分析の精度は大きく向上します。
3. 組織で共有する
個別の事例で終わらせず、横展開すること
で、同様の問題の未然防止につながります。

4. “型”を教育として定着させる

属人的なスキルにせず、誰でも同じレベルで実施できるようにすることが重要です。

■社内研修・出張セミナーのご紹介

こうした課題に対し、JUSEでは

「なぜなぜ分析 × データサイエンス × 実務適用」

を軸とした研修をご提供しています。

●なぜなぜ分析 実践力強化研修

【目的】

なぜなぜ分析を“形”から“使える力”へと高め、再発防止に直結する分析力を養う

【対象】

- ・品質管理・製造部門の担当者
- ・改善活動（QCサークル）メンバー
- ・若手～中堅社員

【主な内容】

- ・なぜなぜ分析の基本と誤りやすいポイント
- ・真因にたどり着くための思考プロセス
- ・サンプルデータを活用した原因検証
- ・事例を用いた演習
- ・事例を用いた課題への適用ワーク

【特徴】

単なる手法説明ではなく、「現場で使える形」に落とし込むことを重視しています。

日々の業務に取り入れやすい実践的な内容となっています。

■最後に

なぜなぜ分析は、とてもシンプルでありながら、奥の深い手法です。

そして、その成果は“問いの質”に大きく左右されます。

もし、

- ・同じトラブルが繰り返されている
- ・分析はしているが効果を感じにくい
- ・対策が「注意」や「教育」で止まっている

といった状況があれば、一度“型”を見直してみる価値があるかもしれません。

JUSEでは、貴社の現場に寄り添いながら、改善活動の定着につながる研修をご提供いたします。

どうぞお気軽にご相談ください。

一般財団法人日本科学技術連盟

品質経営推進センター 営業・企画グループ

[お問い合わせはこちらから](#)

＊社内セミナーに関するお問い合わせは、上記リンク先よりお願いいたします。